

2. 4大学で行うIPW演習

彩の国連携5科目における“IPW演習”は、埼玉県立大学が全学で実施している“IPW演習”に組み込むことは、IPW実習以外に大学ごとに異なる学年歴・時間割を合わせて開催日（期間）の選定が容易ではないことなどの理由から実施は困難でした。しかし、演習（および実習）は、大学混合で行う方が高い教育効果が期待できること、IPEの基本は定義にもあるように「同じ場所で共に学び、お互いから学びあいながら、お互いのことを学ぶ」ことであることから、埼玉県立大学のIPW演習とは別枠で実施する4大学共同開講形態を検討しました。

その結果、城西大学で養成している模擬患者さんの協力を得て、城西大学・埼玉医科大学・埼玉県立大学理学療法学科・日本工業大学（希望者）で実施する「緩和医療（ケア）」をテーマとした**IPW演習（緩和医療学）**、日本工業大学・埼玉県立大学理学療法学科（他学科の希望者）で実施する「生活空間とリハビリ」をテーマとした**IPW演習（リハビリテーションと生活空間デザイン）**の方法を考案しました。

1) IPW演習（緩和医療学）

IPW演習（緩和医療学）は、**緩和ケアを題材に、模擬患者に対する面談**やその内容を踏まえた**4大学混合チームによる議論**によって、全人的なアプローチから**ケアプランを作成**するとともに、**多職種がチームとして活動し、乗り越えるべき課題について考える演習**としています。

コロナ禍には、対面での演習が困難であったことから、学生（チーム）—模擬患者—教員（ファシリテータ）をオンラインで繋ぎ、模擬患者との面談、学生チームディスカッション、教員によるファシリテーション、そしてチーム発表とリフレクションを**Web上で演習する開催方法も開発**しました。



2) IPW演習（リハビリテーションと生活環境デザイン）

IPW演習（リハビリテーションと生活環境デザイン）は、日本工業大学建築学科生活環境デザインコース（建築分野）と埼玉県立大学理学療法学科（リハビリ分野）、および他学科（保険医療福祉分野）の希望者による混合チーム（1チーム3~4名）にて、**生活環境整備に特化したグループワーク**を行います。

ペーパー事例、または協力者（実際に障害をお持ちの方）が**望む生活の実現、生きがいの創出**、また、**地域との関係を持ち役割を發揮できる生活環境**の整備提案をまとめるグループワークを通して、IPWにおけるチーム形成プロセス、およびチームによる課題発見・解決策等の討議の体験、そして、この体験を振り返り（リフレクション）、意味づけ、自分の課題を見出すことを目的としています。

